

令和7年度

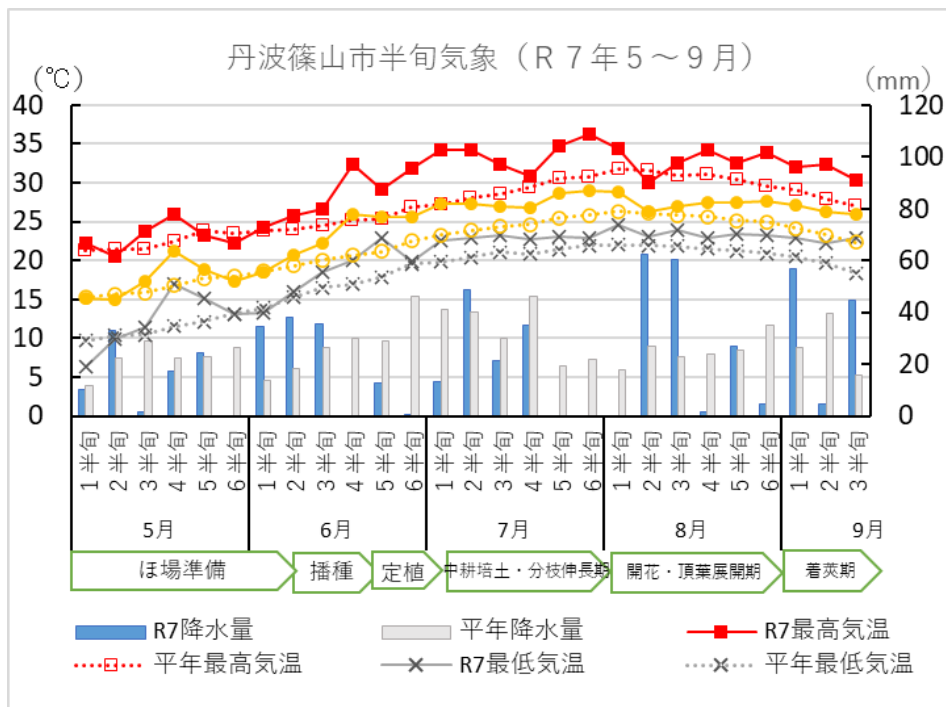
丹波篠山黒豆情報

第3号 令和7年9月18日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・NOSAIひょうご丹波篠山事務所・丹波農業改良普及センター

*丹波篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【気象】

- ・8月以降の開花～着莢期にかけて最高・平均・最低気温ともに平年より高い傾向で推移しました。
- ・8月上旬は定期的な降雨がありましたが、8月後半は降雨が少なく、花芽分化～開花期にかけて高温少雨で推移しました。



近畿地方 向こう2か月（09月～10月）の天候の見通し

予報のポイント

- ・向こう2か月の気温は、平均気温は平年より高くなるでしょう。
- ・向こう2か月の降水量は、近畿太平洋側で平年並みまたは多いでしょう。

【生育】（令和7年9月16日丹波篠山市定点調査結果より）

1株当たり着莢数（莢） ※長さが1cm以上の莢を計数	
令和7年平均	78.0
平年(過去10カ年平均)	87.1
平年比	90%
令和6年(参考)	96.6

- ・6カ所の1株当たりの平均着莢数は78.0莢で、平年（過去10カ年平均）比90%と平年を下回っています。今年は、1株当たり多い地区は120莢、少ない地区は61莢と、大きな差が見られます。

【病害虫】（令和7年9月16日丹波篠山市定点調査結果より）

	立枯性病害	べと病	カメムシ類	ハスモンヨトウ	アブラムシ類	ハダニ類
	株率(%)	株率(%)	虫数/株	被害株率(%)	頭/小葉	頭/小葉
令和7年	2.00	2.50	0.03	1.67	0.00	0.00
平年(過去10カ年平均)	4.87	11.42	0.03	9.54	0.12	0.34
平年比	89%	22%	100%	17%	0%	0%
参考値(令和6年)	1.67	36.67	0.00	10.83	0.00	0.00

- ・立枯性病害（茎疫病、白絹病）の発生が平年に比べて少ない状況ですが一部地域で発生しています。
- ・莢を加害する害虫についてカメムシ類の発生やフタスジヒメハムシの被害が一部の地域で見られます。
- ・べと病、ハスモンヨトウ、葉焼病が一部のほ場で発生が見られますので注意しましょう。

【今後の対策】

1 着莢・粒肥大期の水管理等

- ・子実が肥大する10月下旬までは水管理が重要となります。晴天が続く、土壌が乾いている場合は、適宜かん水を行きましょう。

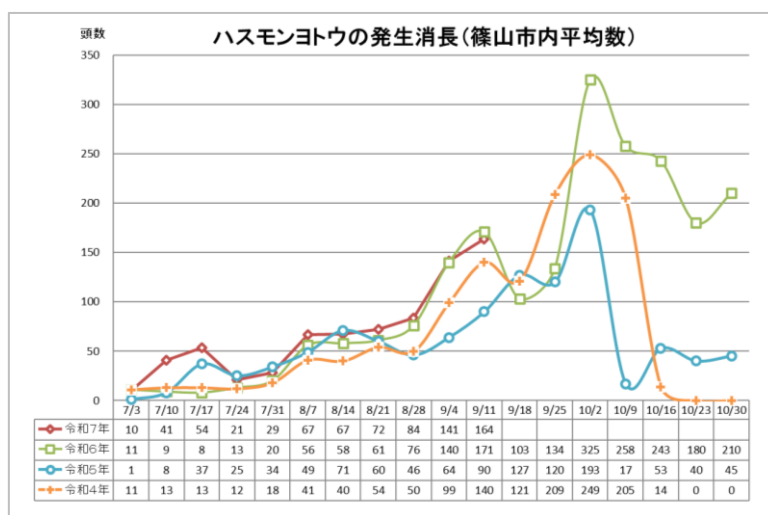


- ・湿害や立枯性病害の発生を防止するため、長雨やゲリラ豪雨、台風等により畝間に水が溜まっている場合は、排水対策（排水口を整えたり、排水溝と排水口を確実につなぐなど）に努めましょう。

2 害虫対策

県病虫害防除所 HP

- ・ハスモンヨトウ発生予察注意報が県内全域に発出されています。
(9月11日付 県病虫害防除所)
- ・市内では8月下旬以降のハスモンヨトウ発生が多くなっています。
毎年9月下旬以降はさらに発生が増える傾向があるため、
幼虫が孵化し、食害により白く見える葉（白変葉）は速やかに除去し、薬剤防除を徹底してください。
- ・カメムシ類、フタスジヒメハムシなどは莢肥大期に莢を吸汁、食害し被害が大きくなるため、発生に注意し、定期的な薬剤防除を実施しましょう。



上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。枝豆出荷する場合は使用時期に注意しましょう。

3 立枯性病害（茎疫病、白絹病）対策

- ・ほ場の排水対策を徹底し、立枯性病害が発生した場合は、発病株を早急に抜き取り、抜き取った株は、土をほ場内で払い落とさないようにしてほ場外に持ち出して処分しましょう。

